

橋梁技術発表会及び講演会

— 100年橋梁を目指した技術 —

参加費無料
定員200名
申込先着順

会場

東建ホール・丸の内(東建本社3F)

〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-1-33
TEL 052-232-8070

平成25年

日時 12月6日(金) 13:00~17:05

13:00~13:10

開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会
副会長・専務理事 下 保 修

13:10~13:40

橋建協報告

いい橋つくろう

橋梁技術発表会実行委員会

申込方法

- ① Fax. 052-551-6446 (裏面の用紙に記載)
- ② ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受付」まで(受付は9月下旬から)

申込期限

平成25年11月22日(金)

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会 中部事務所
〒451-6008 名古屋市中区牛島町6番1号
JFEエンジン内 TEL 052-551-6446

继续教育

土木学会認定CPD(继续教育)プログラム
全国土木施工管理技士会連合会認定CPDSプログラム

- ※東京地区は 10月11日(金) 銀座プロッサムホール
- 大阪地区は 10月18日(金) ドーンセンター
- 北海道地区は 11月 1日(金) ホテルモンテレーデルホフ札幌
- 東北地区は 11月 8日(金) 仙台国際センター
- 九州地区は 11月22日(金) レソラNTT夢天神ホール 開催です。
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

発表原稿のPPTはホームページに掲載しますので、ご希望のかたはダウンロードお願いします。

アクセス



●名古屋市営地下鉄 桜通線・鶴舞線「丸の内」駅下車
1番出口より徒歩1分

第1部:技術発表会

13:40~14:20

1.若戸大橋ケーブル関係の健全度調査および補修工事

—建設後50年経過した長大吊橋のケーブル関係の保全—
技術委員会 設計小委員会 杉山 直也

14:20~14:30

休憩

14:30~15:10

2.100年橋梁を目指して

—鋼コンクリート合成床版を用いた少数桁橋の維持管理—
技術委員会 床版小委員会 春日井俊博

15:10~15:50

3.道路ネットワーク維持管理の必要性と鋼橋の更新時期について
—Fix It First(まず修繕を)—

保全委員会 保全第一部会 保全第二部会
亀山 誠司

15:50~16:00

休憩

第2部:特別講演会

16:00~17:00

1.鋼橋の耐震設計の現状と想定外の被害の軽減に向けて

名古屋工業大学大学院
社会工学専攻
教授 後藤 芳顕



17:00~17:05

閉会の辞

公益社団法人 土木学会中部支部 幹事長 市川 和邦

1 若戸大橋ケーブル関係の健全度調査および補修工事

—建設後50年経過した長大吊橋のケーブル関係の保全—

若戸大橋は、我が国最初の長大吊橋として1962年に完成し、北九州工業地帯の基幹インフラとして、また若松区と戸畑区を結ぶ市民の生活道路としても大きな役割を果たしてきた。この若戸大橋において、ケーブル関係の健全度把握のための調査および補修工事を今回行った。

主な内容は、①主ケーブルの深部現状調査、②ハンガーロープの一部取替え、③ケーブルバンドボルトの全数取替えである。特に主ケーブルについては、ケーブルバンド部において素線の破断が見られ、その原因を明らかにするため詳細調査を実施した。

2 100年橋梁を目指して

—鋼コンクリート合成床版を用いた少数I桁橋の維持管理—

鋼コンクリート合成床版を用いた少数桁橋は、合理的で経済的な鋼橋の代表的な構造形式として広く普及しつつあります。道路構造物などの社会資本ストックの増大とともに増え続ける維持管理費用を抑制しながら、安全に道路を利用するためには、鋼橋の初期建設費を縮減するとともに経済的に維持管理および必要な更新を行うことが不可欠となっています。日本橋梁建設協会では、100年以上にわたって供用される鋼橋を100年橋梁とよんでいます。本報告は、新しい構造形式である鋼コンクリート合成床版を用いた少数桁橋で、100年橋梁を実現していくために必要な維持管理手法を具体的に紹介します。

3 道路ネットワーク維持管理の必要性と鋼橋の更新時期について —Fix It First(まず修繕を)—

橋梁の老朽化が問題視される中、近年における通行止め橋梁の増大とその問題点を探る。

補修事例2件、「①『原田橋』:昨年6月に応急復旧した事例、②『弁天橋』11月に落橋しかけた吊橋の撤去工事。」を取り上げ、調査点検の盲点、マニュアルの危険性を、補修技術、撤去技術、モニタリング技術、LCCの視点から報告する。

最後に国土強靱化計画で補修の必要性が高まる中、FIT IT FIRST(まず補修)を説明し、早期に架け替えをすることは長期に見た場合、安心・安全、コストダウンにつながることをPRし、新たな更新橋梁の拡大を目指す内容の紹介を行う。

特別講演会

1 鋼橋の耐震設計の現状と 想定外の被害の軽減に向けて

後藤 芳顕

名古屋工業大学大学院
教授
社会工学専攻

—略歴—

1973年 3月 名古屋工業大学 工学部 土木工学科 卒業
1975年 3月 東京大学 工学系研究科 土木工学専攻 修士課程修了
1975年 4月 住友金属工業(現 新日鐵住金)中央技術研究所 研究員
1981年 10月 名古屋工業大学 助手
1983年 3月 工学博士(東京大学)
1983年 4月 名古屋工業大学 講師
1984年 4月 名古屋工業大学 助教授
1991年 4月 名古屋工業大学 教授
この間
1985年 5月~1986年 9月 米国Purdue 大学客員准教授
1991年 3月~1991年 9月 英国Nottingham 大学客員研究員
2001年 6月~2003年 5月 土木学会中部支部商議員
2008年 6月~2010年 5月 土木学会理事
2009年 6月~ 土木学会 鋼・合成構造標準示方書 耐震設計編 主査

—専門分野—

構造工学,耐震工学,応用力学

—所属学会—

土木学会,米国土木学会,日本鋼構造協会

—主たる受賞—

1998年 土木学会 田中賞(論文部門)
2009年 土木学会 論文賞
2010年 土木学会 研究業績賞

など

講演概要

阪神大震災で鋼橋も大きな被害を受けた。その後、これを教訓に兵庫県南部地震クラスの極大地震動に対しても安全性が確保されるように新たな耐震設計の枠組みが構築された。加えて、制震、免震技術も積極的に取り入れられるようになった。また、東日本大震災を契機に、継続時間の長い地震動も設計地震動として取り入れられた。現行の耐震設計は、過去の地震に基づいて設定された設計地震動に対して構造物の損傷を制御し、安全性を確保するという基本的な考え方を採用している。本講演では耐震設計の現状と課題、さらに想定外の被害を軽減するためのいくつかの取り組みについて紹介する。

FAX番号:052-551-6446

平成25年度

12月6日(金)

橋梁技術発表会

[中部地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無